

柏原市の財政状況について

～令和5年度決算～

令和6年12月作成（当初版）

柏原市 財務部 財政課

柏原市公認キャラクター
かしびょん



もくじ

財政とは	2
決算（一般会計）について	3
歳入（一般会計）について	4
歳出（一般会計）について（性質別）	5
一人あたりの歳入・歳出について（令和5年度決算）	6
令和5年度の主な施策について	7
歳入歳出の推移について	8
地方債の残高について	9
基金の残高について	10
財政指数について	11

「財政」とは

● 「財政」について

「財政」という言葉を一言で表すと、「お金のやりくり」と言うことができます。

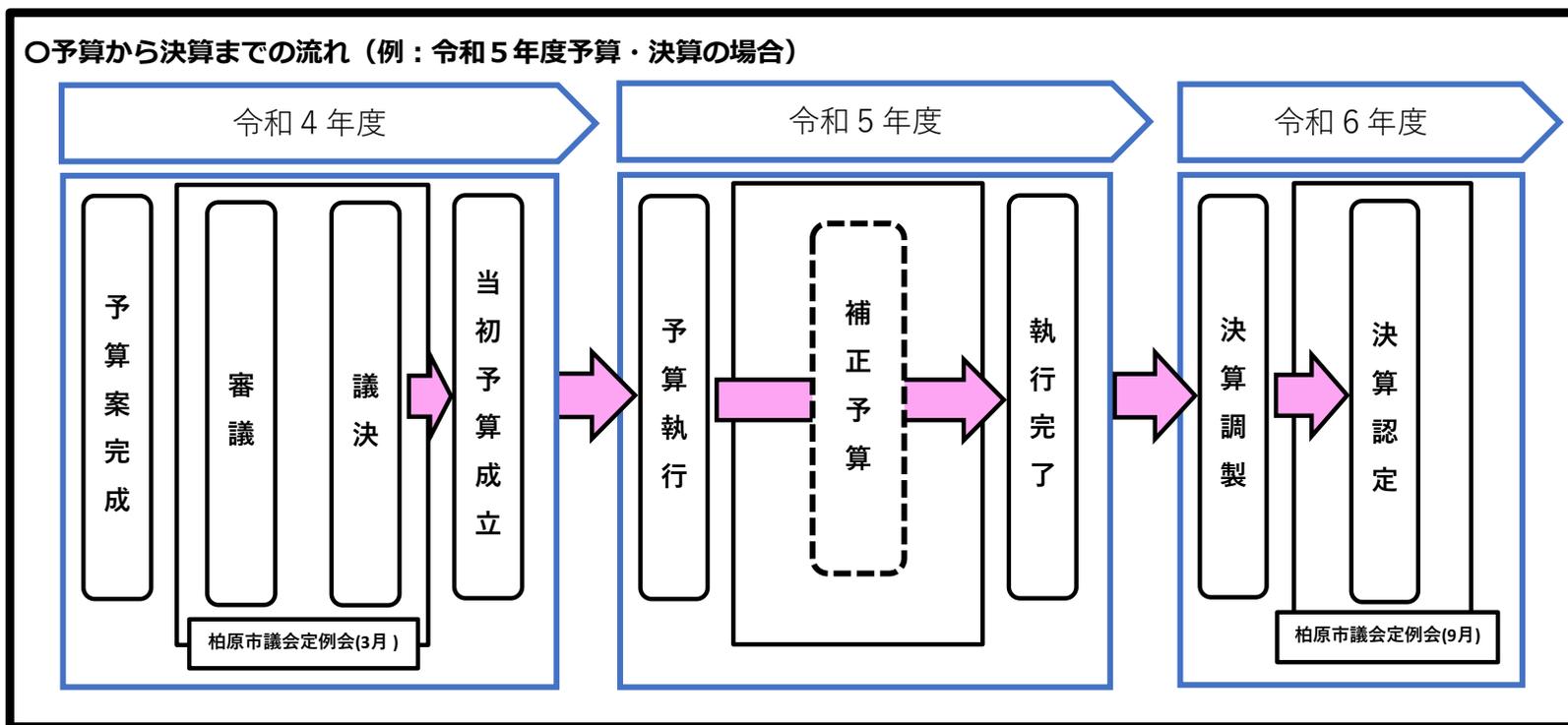
皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローンなどを支払って生活しているように、市では皆様に納めていただいた税金などを集めて管理し、学校や図書館などの運営、子育て、介護、障がい者の支援、道路や下水道の維持管理、ごみの回収など、様々な行政サービスを行っています。

● 「予算」と「決算」について

「予算」とは、行政サービスを行うためのお金のやりくりの「計画」を意味し、4月～3月までの1年間の税金などの収入額を予測し、その収入額に見合ったお金の使い道を決めます。

「決算」とは、4月～3月までのお金のやりくりをした「結果」と言えます。

○予算から決算までの流れ（例：令和5年度予算・決算の場合）



次のページで柏原市の決算について見ていきましょう。

令和5年度決算

令和5年度の決算は、歳入、歳出ともに前年度から減少し、歳入の減少額が歳出の減少額を大きく上回りました。

歳入総額：286億45万円（前年度比▲12億9,123万円）

歳出総額：285億4,457万円（前年度比▲4億6,811万円）

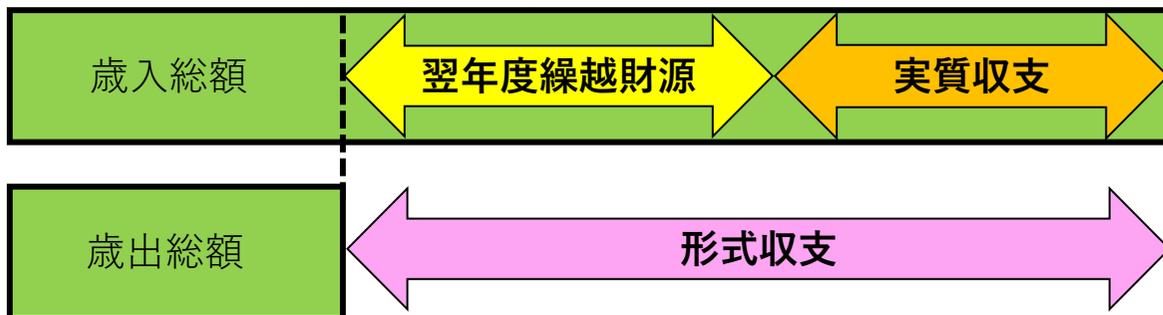
形式収支：（歳入総額－歳出総額）

286億45万円－285億4,457万円＝5,588万円（前年度比▲8億2,312万円）

実質収支：（形式収支－翌年度繰越財源）

5,588万円－4,560万円＝1,028万円（前年度比▲7億9,208万円）

○実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）

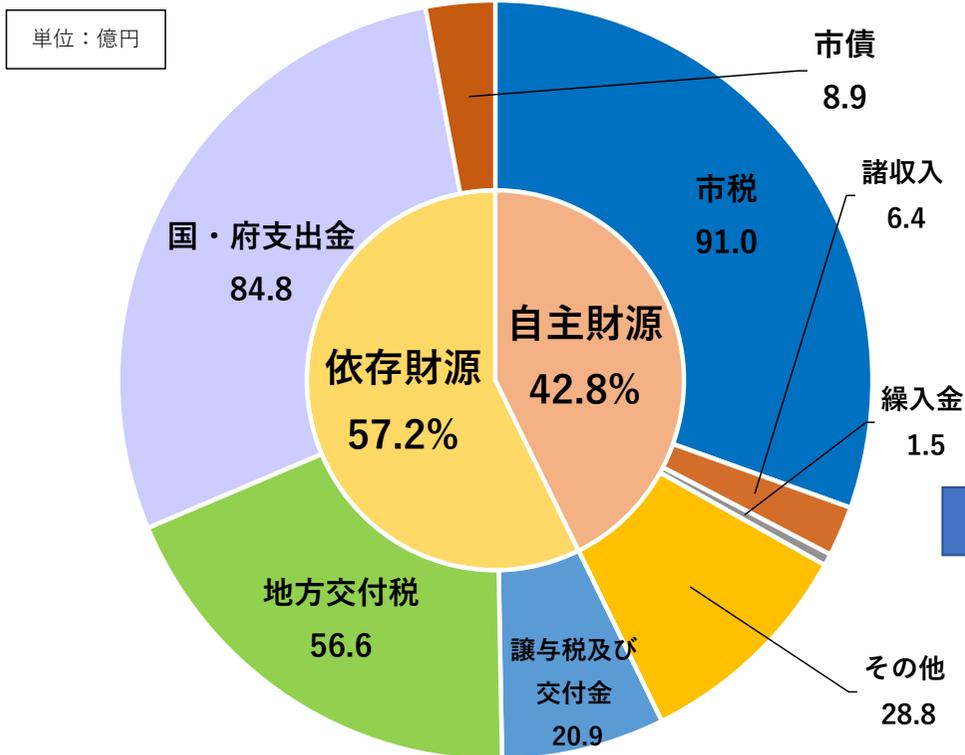


翌年度繰越財源は、翌年度に繰り越した事業に充てる財源になります。
次のページで歳入・歳出の詳しい内訳を見ていきましょう。

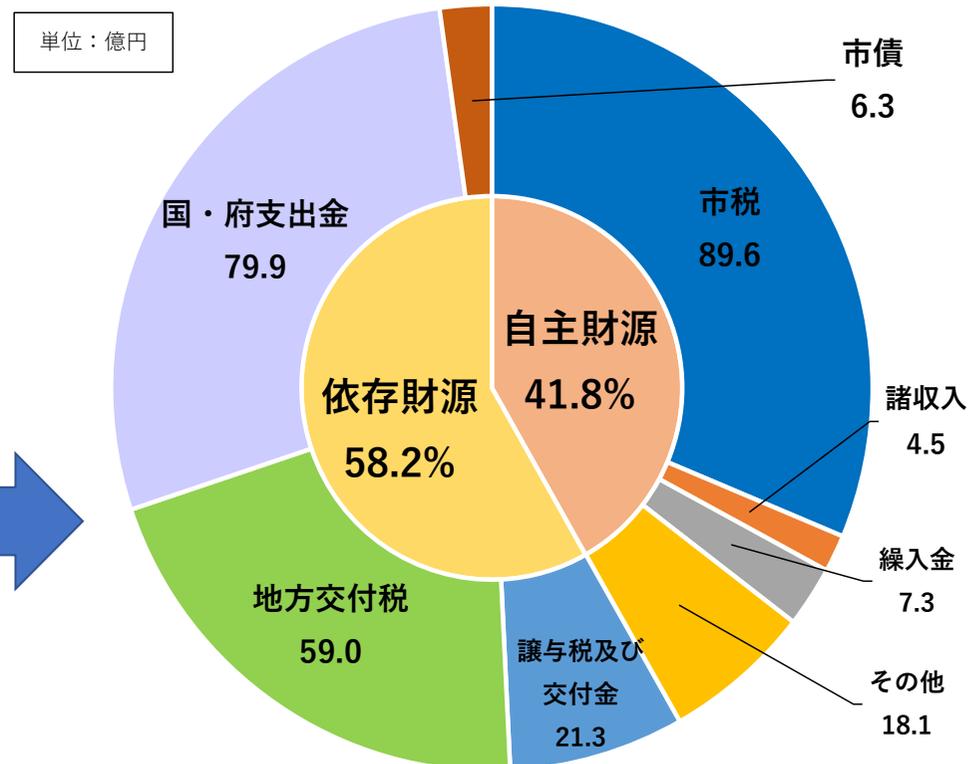


歳入（一般会計）について

令和4年度歳入総額：298億9,168万円



令和5年度歳入総額：286億45万円



用語の解説

「自主財源」と「依存財源」について

- 自主財源
税収など、市が自主的に収入を確保できる財源
- 依存財源
国や府の基準に基づき配分される財源で、自主的に収入を確保できない財源

○主な増加項目

繰入金：財政調整基金繰入金やふるさと基金繰入金の増により+5億8,197万円

○主な減少項目

市 税：個人市民税や法人市民税の減などにより△1億3,757万円

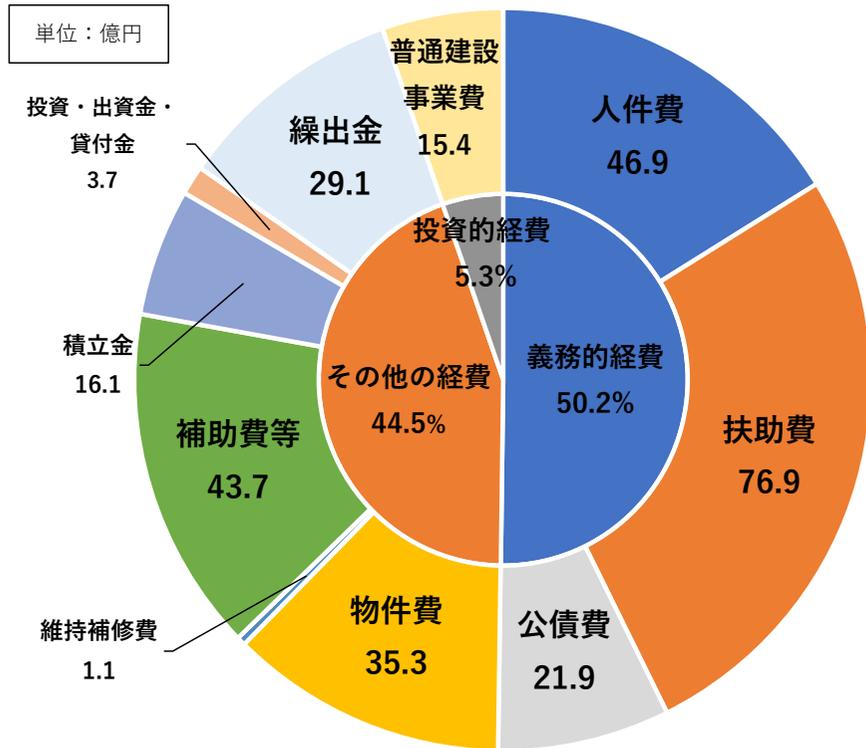
その他：財産収入（土地売払収入）の減などにより△10億6,899万円

国・府支出金：国庫支出金における新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金の減などにより△4億8,887万円

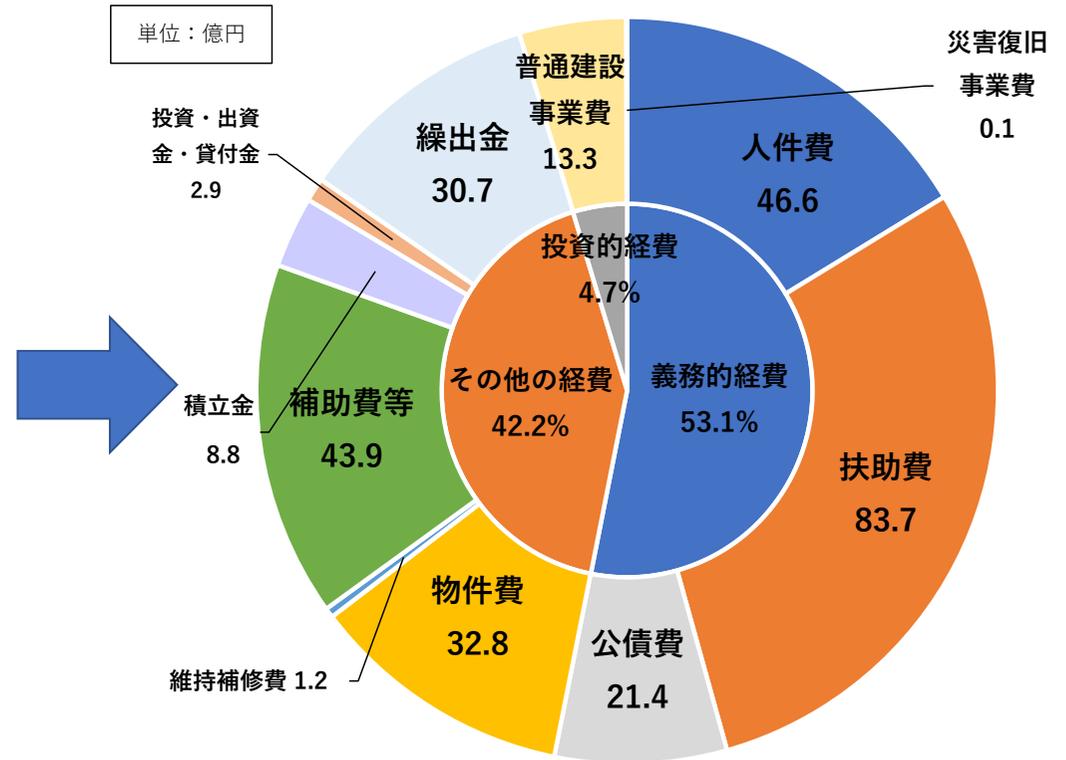
歳出（一般会計）について（性質別）

※性質別＝経済的な性質でお金の使い道を区分した歳出です。

令和4年度歳出総額：290億1,268万円



令和5年度歳出総額：285億4,457万円



用語の解説

「義務的経費」について

「義務的経費」とは、その支出が義務付けられているもので、市の裁量で削減することが難しい経費のことであり、人件費・扶助費・公債費があてはまります。義務的経費の割合が高いほど、自由に使える経費が限定されることになるため、財政的なゆとりが少なくなります。

○主な増加項目

扶助費：障害者施策経費や各種給付金事業の増により+6億7,927万円

○主な減少項目

積立金：財政調整基金や公共施設等整備基金などへの積立の減により
△7億2,355万円

普通建設事業費：田辺旭ヶ丘線整備事業や自立支援センター施設整備事業などの減により△2億1,098万円

一人あたりの歳入・歳出について（令和5年度決算）

令和5年度の決算額を市民一人あたりに換算すると以下のとおりです。



一人あたりの歳入

区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【市税】	給料	89.6	134,480	31.3%
【諸収入】	パート収入	4.5	6,832	1.6%
【繰入金】	貯金の 取り崩し	7.3	10,989	2.5%
【その他】 財産収入 など	駐車場収入 など	18.1	27,233	6.4%
【譲与税及び交付金】		21.3	31,967	7.4%
【地方交付税】	助成金	59.0	88,558	20.6%
【国・府支出金】		79.9	119,929	28.0%
【市債】	銀行借入	6.3	9,397	2.2%

一人あたりの歳出

区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【人件費】	食費	46.6	69,941	16.3%
【扶助費】	医療費	83.7	125,704	29.3%
【公債費】	ローンの返済	21.4	32,068	7.5%
【物件費】	光熱水費・ 被服費など	32.8	49,264	11.5%
【維持補修費】	家の補修 費用	1.2	1,731	0.4%
【補助費等】	自治会費 など	43.9	65,971	15.4%
【その他】 繰出金・投資・出資金・ 貸付金・積立金	○仕送り ○融資 ○貯金	42.4	63,638	14.9%
【投資的経費】	家の増改築 費用	13.4	20,229	4.7%

令和5年度の主な施策について

にぎわいづくり

市民総合フェスティバル 振興事業

市民総合フェスティバルにおいて「かしわら花火」を開催しました。

【決算額】
3,885万円

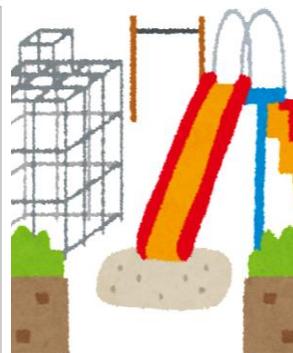


まちづくり

公園施設長寿命化計画の策定

公園施設の安全性や快適性を確保するため、遊具などの計画的な更新や、修繕に向けた公園施設長寿命化計画を策定しました。

【決算額】
1,078万円



子育て・教育関連

小学校体育館への 空調設備の設置

市内公立小学校9校の屋内運動場空調設備設置に向けて、5校分の設計業務を行いました。

【決算額】
1,639万円



アフターコロナにおける社会変化への対応

電気自動車の導入

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組として、電気自動車を2台導入しました。

【決算額】
57万円



街路灯LED化事業

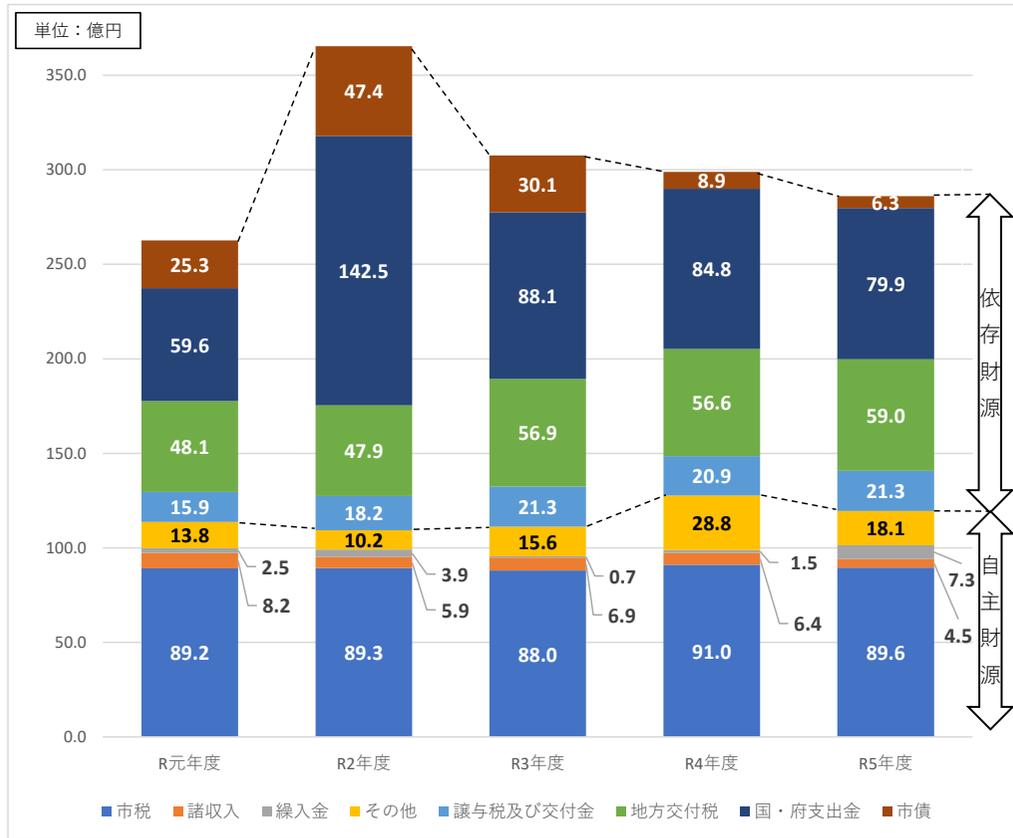
市が管理する全ての街路灯のLED化を完了しました。また、市民が街路灯の不具合を投稿できる街路灯管理受付システムを構築しました。

【決算額】
5,060万円



歳入歳出の推移について

歳入額の推移



歳出額の推移



○歳入額の推移について

依存財源は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰に関する交付金など、一時的な増加は落ち着きつつありますが、高齢化などに伴う継続的な社会保障関連経費の増加により、国・府支出金や地方交付税が増加しています。

自主財源は、ほぼ横ばい傾向となっていますが、財政規模が大きくなっていることにより、相対的な割合は低い水準で推移しています。

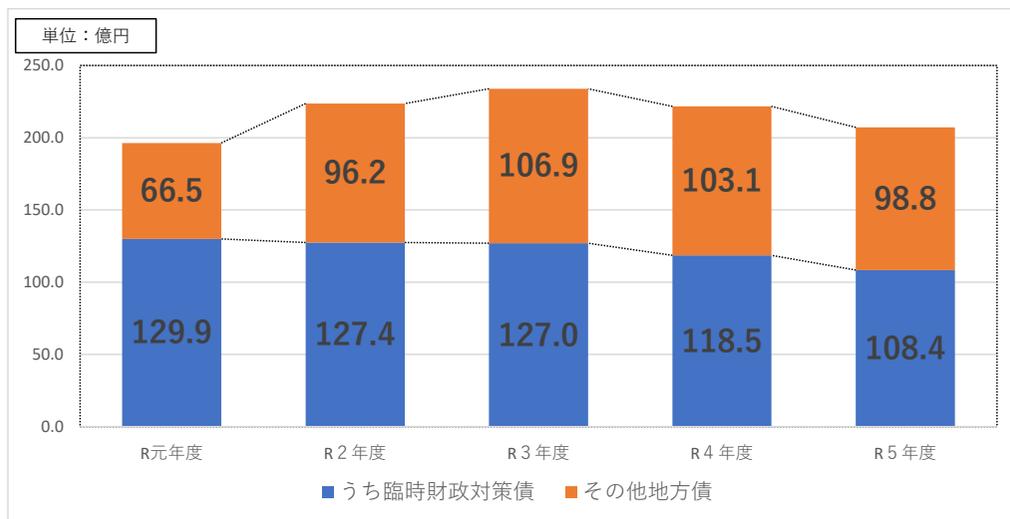
○歳出額の推移について

義務的経費は、人件費や扶助費を要因とした増加傾向となっています。投資的経費は、令和3年度まで庁舎や認定こども園の建設に伴う経費により増加していましたが、現在は事業内容や時期の精査などにより減少しています。

その他経費は、物件費や補助費において、物価や人件費上昇の影響が続いています。

地方債の残高について

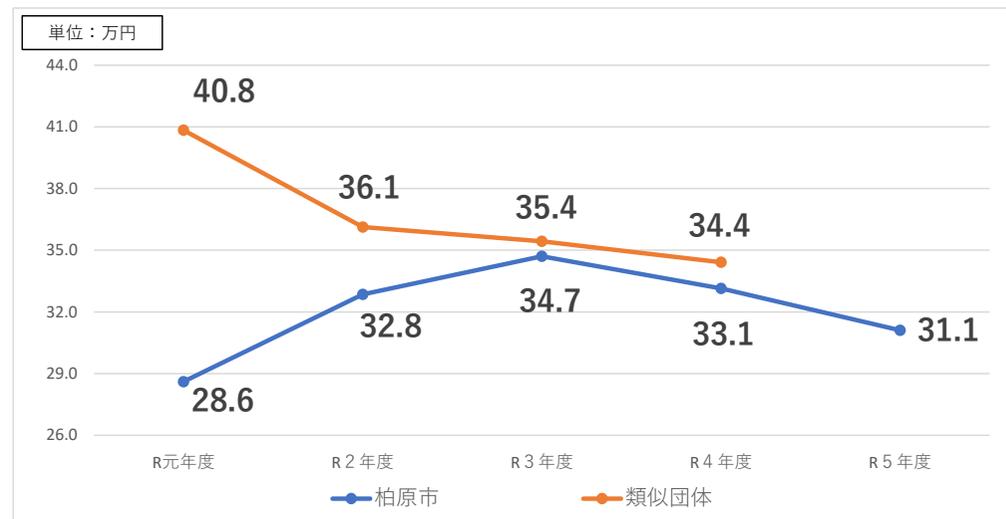
地方債残高の推移



○地方債残高の推移について

庁舎や認定こども園の建設などの大規模事業により、令和3年度までは増加傾向となっていました。事業内容や時期の精査などを行い、地方債の新規発行を抑制したことに加え、過去に借り入れた地方債の償還が進んでいることから、地方債残高は減少しています。

地方債残高の推移（一人あたり）



○類似団体との比較について

令和4年度末時点で、市民一人当たりの地方債残高は33.1万円となり、類似団体より1.3万円少なくなっています。

令和3年度までは、大規模事業による地方債の発行が増えたことで、類似団体との差は縮まる傾向となっていました。令和4年度は地方債の新規発行を抑制したことにより類似団体同様に減少傾向となりました。

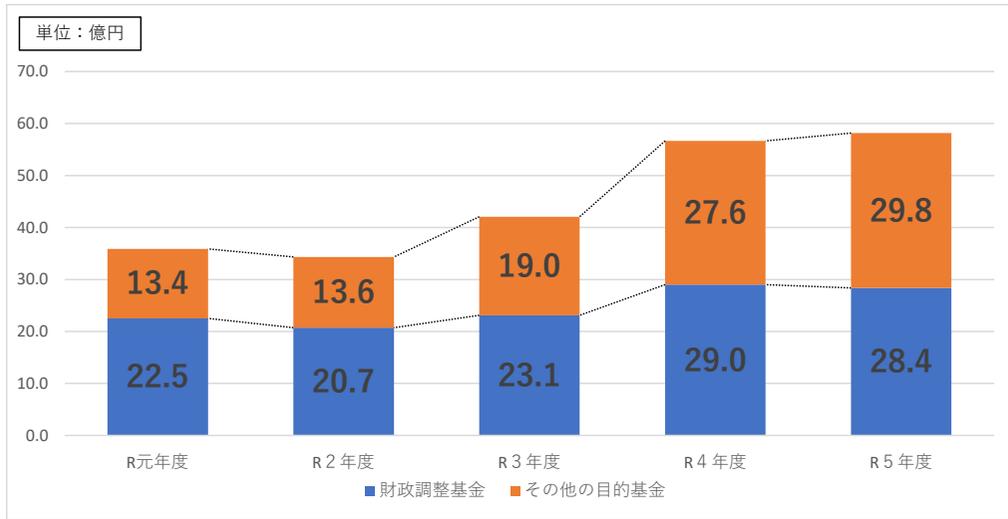
「地方債」は市の借金のことだね。柏原市は借金をしないとイケないくらいお金がなくて大変な状況なのかな。



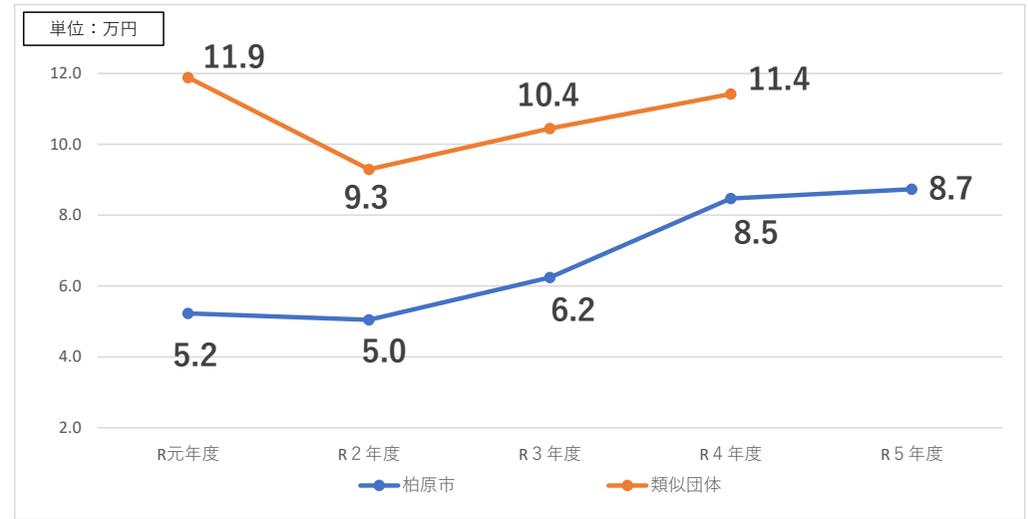
たしかに借金ですが、図書館や公園などの公共施設の場合、建設から数十年間にわたる利用期間があることから、世代間における負担の平準化という考え方により、地方債を借り入れ、決められた期間の中で毎年一定額を返済していくことにしています。ただ、借金であることには変わりないため、地方債の発行にあたっては将来世代の過度な負担にならないかといったことを考慮した上で、計画的に借入を行う必要があります。

基金の残高について

基金残高の推移



基金残高の推移（一人あたり）



○基金残高の推移について

令和2年度にかけては、庁舎建設費用の一部を基金で賄うために財政調整基金を取り崩したことなどにより、基金残高が減少していましたが、令和3年度以降は前年度決算による剰余金が発生したことにより、基金残高が増加しています。

ただ、令和5年度は財源不足を補てんするために、財政調整基金を一部取り崩したことにより、基金残高は微増となっています。

○類似団体との比較について

令和4年度末時点で、市民一人当たりの基金残高は8.5万円となり、類似団体より2.9万円少なくなっています。

令和3年度以降は、決算剰余金等の基金積立を行ったことにより、基金残高は増加していますが、類似団体においても、同様に基金残高が増加していることから、その差は大きくは縮まっていません。

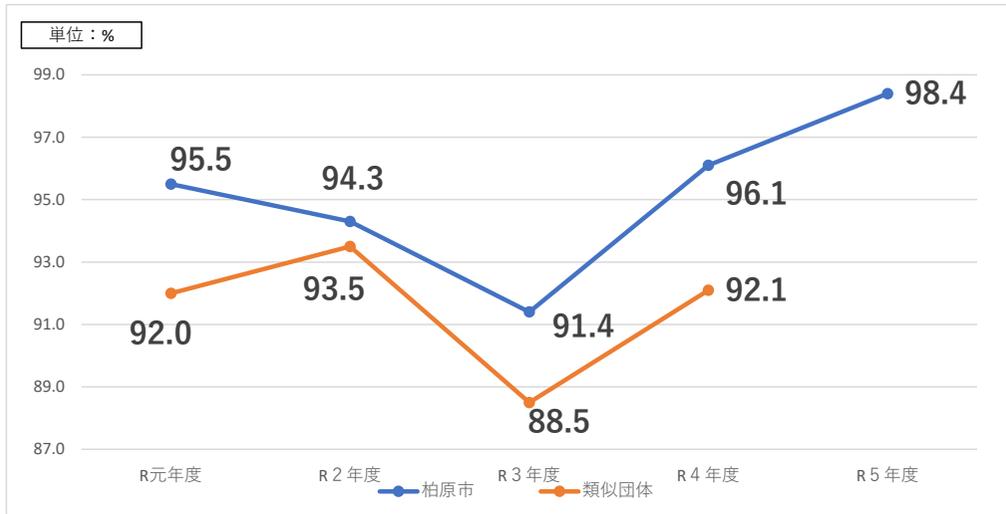
「基金」は市の貯金のことだね。柏原市の状況をみると他の市よりも貯金額が少ないみたいだけど大丈夫なのかな。



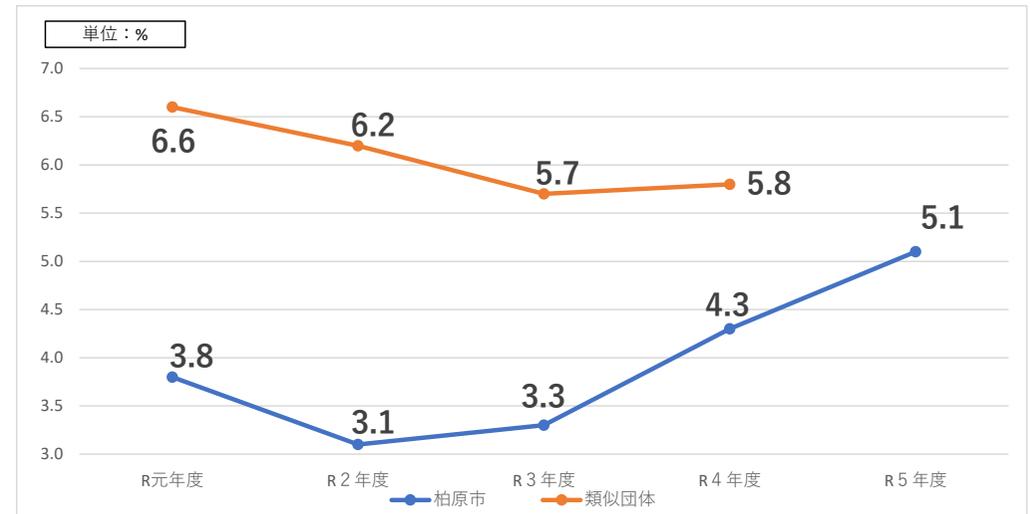
市の貯金は、財源不足や災害の発生といった不測の事態に備えて、一定の額を積み立てる必要があり、今は一般的とされている基準を超える貯金額になっています。ただ、令和5年度は貯金の取り崩しも行っているため、これからは貯金額を減らさず、増やせるような収支状況としていく必要があります。

財政指数について

経常収支比率の推移



実質公債費比率の推移



用語の解説

○**経常収支比率**・・・毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費などの経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標です。

○**実質公債費比率**・・・地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。どちらの比率も数値が低いほど財政に余裕があるといえます。

○経常収支比率の推移について

令和3年度までは改善傾向となっていました。令和4年度以降は経常的支出となる社会保障関連経費の増加などに伴い、急激に悪化しています。

令和5年度は、経常的収入（市税等）が減、経常的支出（扶助費等）が増と、収支両面における数値の悪化により、比率も悪化しています。

○実質公債費比率の推移について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応などによる財政規模の拡大により、減少しましたが、令和3年度以降は、庁舎建設などの大規模事業により発行した地方債の償還が本格化したことや財政規模の縮小に伴い、急激に悪化しています。

○類似団体との比較について

令和4年度は96.1%となっており、類似団体より4%高くなっています。

令和2年度は、類似団体に最も近い数値となり、それ以降の推移は似ているものの、差は大きくなっています。

○類似団体との比較について

令和4年度は4.3%となっており、類似団体より1.5%低くなっています。

令和2年度までは、類似団体より低い状態で推移していましたが、令和3年度以降は、地方債の償還額の増加などにより比率が上昇し、差が小さくなっています。